発達支援コラム No.26

焼津市の通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。

「発音や話し方が気になる子」

発音の発達にも、順序があります。最も早い段階で完成する音は、パ行音・バ行音・マ行音です。これらは、両唇音といって、上下の唇を使って音を作ります。「ママ」「パパ」「バーバ」は赤ちゃんにとっていいやすい音なのです。

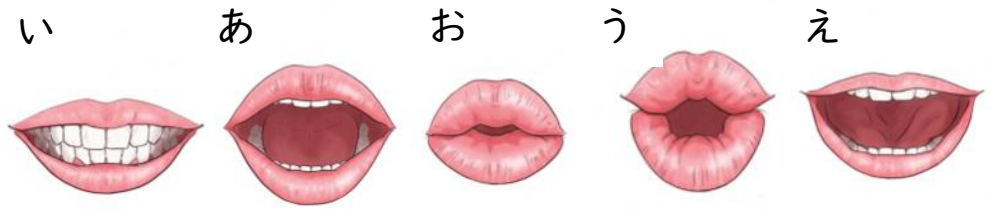
反対に、最も遅い段階で完成する音は、サ行音・ラ行音です。舌先と歯を使って発音するサ行音や、舌先の微妙な動きを必要とするラ行音は、その発音の仕方の複雑さから最後に完成するといわれています。

正しい発音の完成には、個人差があるので、「必ず〇才で正しく発音できる」ということはありません。

口腔機能（唇・舌等）の発達の具合により、音としてはそれなりに正しく発音しているようだけれど、よく聞くと不明瞭であるということがあります。

最近の子どもたちには、口を大きくはっきり動かして話さない様子が多く見られます。以前、「ことばの教室」の先生たちと「近頃の子どもたちは、省エネだね。」と話したことがあります。口の形がほとんど変わらない子、口角（唇の左右の端）を常に横に引いている子、また、「たこの口」の「う」（口をすぼめる）ができない子もいます。

相談に見えた保護者さんには、家庭でできる訓練方法をお伝えします。シャボン玉ふき、風船ふくらまし、口笛吹き、など。

食事の時間も貴重な訓練タイムです。口を閉じて、食べ物を口からこぼさずしっかり噛むことができない子も増えています。（アレルギー性鼻炎等、鼻がわるい子には無理強いできませんが。）食事の時間（園や学校の先生方は給食の時間）にお子さんの様子を観察してみるといいかもしれませんね。

一年生の国語の教科書に「あ・い・う・え・お」の口の形が載っています。発音の相談に見えた保護者さんには、必ず一年生の国語の教科書の話をします。大切なことだから、国語の教科書のはじめに載っているのだと最近自分でも納得しています。